

2017年10月20日

ご参考資料

楽読
(ラクヨミ)Vol.
1,281Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

中国の17年7-9月期実質GDP成長率は やや減速し6.8%増

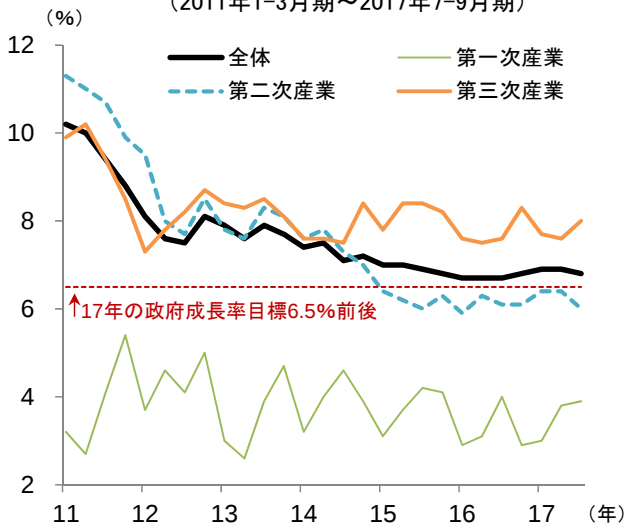
中国が10月19日に発表した2017年7-9月期の実質GDP(国内総生産)成長率は、前年同期比6.8%増で前期(6.9%)に比べて伸び率はやや減速しましたが、1-9月期では同6.9%増となり、通年で17年の政府目標である6.5%前後の達成は確実とみられます。17年1-9月期のGDP寄与度をみると、1-6月期との比較で、消費(4.45%)は上回り、投資(2.26%)は横ばい、純輸出(0.19%)は下回りました。

1-9月期の投資は前年同期比7.5%増となり、インフラ投資は伸びる一方で民間投資が伸び悩んだことから1-6月期に比べて伸び率は鈍化しました。また、鉱工業生産についても、環境規制の強化で工場の生産停止や廃業が広がった影響などから伸び率は鈍化し、同6.7%増となりました。一方、1-9月期の小売売上高は、自動車は振るわなかったものの化粧品や医薬品、家具などが好調で、同10.4%増と堅調に推移しました。特に、小売売上高の18%超を占めるネット通販については、同34.2%増と加速しました。なお、名目GDPの産業別比率では、サービス産業(第三次産業)が約53%と50%を上回っており、政府が目指すサービス業への構造改革は進んでいるとみられます。

5年に1度開かれる最重要会議である共産党大会が18日に開幕しており、24日の最終日には中国の行動指針が決定され、閉幕後に習政権の新指導部が発表される予定です。習近平国家主席は、党大会初日の演説の中で「小康社会(ややゆとりのある社会)を完成させ、今世紀半ばまでに社会主義の現代化した強国を築く」との目標を示しました。さらに、中国は高速成長段階から質の高い発展を目指す段階に移行する中で「品質第一、効率優先」の方針を堅持し、「一帯一路(シルクロード経済圏)」での国際協力を積極的に促進し自由貿易圏を建設、開かれた世界経済の維持・発展をめざす方針なども示しました。これらの方針は前述の行動指針に盛り込まれるとみられ、引き続き、安定成長を保ちつつ新常态(経済の質を重視した安定成長)や構造改革を前進させていくと期待されます。

実質GDP成長率(前年同期比)の推移

(2011年1-3月期～2017年7-9月期)



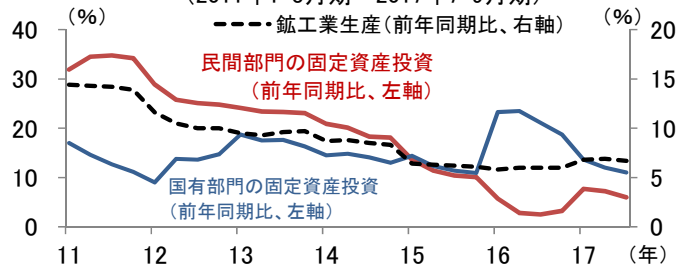
(注) 実質GDP成長率以外の統計は、すべて年初来累計

(CEICのデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

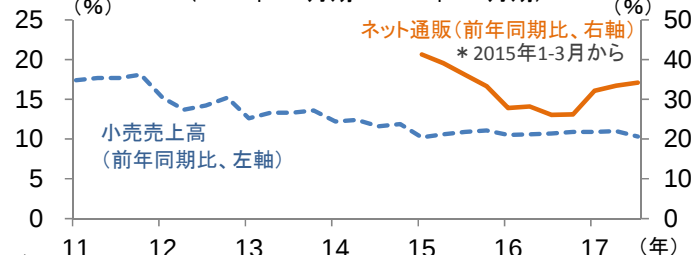
鉱工業生産と固定資産投資の推移

(2011年1-3月期～2017年7-9月期)



小売売上高とネット通販の推移

(2011年1-3月期～2017年7-9月期)



日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。